

トップへ

-

NIPPONAKANE とは

日本茜について

染めワークショップ

NIPPON AKANE を扱いたい

日本茜を栽培したい

-

日本茜研究会

お問合せ

-



日本茜サミットを開催します →

NIPPON AKANE SUPPORTER

NEWS | 日本茜サミットを開催します

詳しくはこちら →

日本の本来の赤を復活させる。その為のブランド化。

私たちは、幻といわれた染草 “日本茜 “の復活を目指しています。

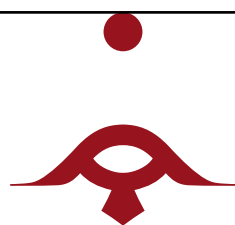
古代から近世まで高貴な色として親しまれてきた日本の「日の丸の色」日本茜。特に日本女性にとっては、万葉集でも読まれている恋焦がれる茜です。

その茜を「NIPPON AKANE」という形でブランド化し、農産物とし、植物染料として復活させ、日本を象徴する色 “JapanRed®” まで推し進めようという取り組みです。

NIPPON AKANE を扱いたい

日本茜を栽培したい

NIPPON AKANE とは



日本茜について

[illegible]

日本茜の歴史



日本茜を使った色



日本茜関連施設



日本茜を使った色

茜色（あかねいろ）



日本茜の根で染めた暗い赤色。夕暮れ時の空の形容などに良く用いられることで知られています。日本茜を染料として得る色には他に、緋色がありますが、こちらは鮮やかな赤色で茜色よりはるかに明るい色合いです。

緋（あけ）・緋色（ひいろ）



やや黄色みのある鮮やかな赤色。平安時代から用いられた伝統色名。山野に自生する多年草の日本茜を染料とし、灰汁で媒染した色。色名の「あけ」は日や火の色という意味。推古天皇の時代以来、紫に次ぐ高位の色になり、奈良時代に定められた服飾尊卑では 19 色の中で 5 番目に位置づけられました。平安時代の中頃から染法が変わり、それに伴い色調も鮮やかな赤色に、読み方も「緋色」となりました。

深緋（こきあけ）

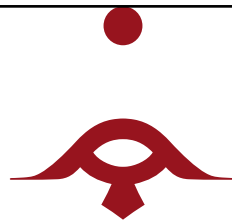


茜染めによる暗い赤色で、「こきあけ」や「ふかひ」などと呼ばれることもあります。緋色は日本茜だけで染めますが、深緋は日本茜に紫草を上染するのでとても手間がかかった。「延喜式」では紫に次ぐ高位の朝服の色でした。

浅緋（あさあけ）



日本茜で薄く染めた緋色。わずかに黄みがあった赤色。大宝元年の服制では「直冠上四階深緋。下四階浅緋」となっており、『延喜式』においては紫、深緋、浅緋と、上から３番目に高位だった色です。一般に緋あるいは真緋といわれる色はこの浅緋を指しています。「うすきひ」、「うすあけ」ともいいます。



トップ / 日本茜について

日本茜について

テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入
ます。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキスト
が入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。

日本茜の歴史



日本茜を使った色



日本茜関連施設



日本茜関連施設

高崎市染料植物園

古くから伝えられてきた日本の染織文化やその魅力を多くの人々に伝えるために造られた植物染色のテーマパークです。園内には染料植物の道をメインに、昔から衣服などを染める原料に使われてきた代表的な染料植物が、たくさん植えられています。染色工芸館では染織品を展示し、草や木から染められるさまざまな色を見ることができます。また、草木染・藍染の講習会や染色体験では、自然の織りなす色を肌で感じ、時を超えた彩りの世界を楽しむことができます。

〒370-0865 高崎市寺尾町 2302-11

OPEN:9:00～16:30（4月～8月までの土・日、祝日は9:00～18:00）※入園は閉園30分前まで

TEL : 027-328-6808

HP : <http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2017082200011/>

財団法人 賞誉会 繊維染色研究所

昭和 57 年に創設された染料植物園を備えた繊維染色研究を目的とした研究・実験施設。

初代研究所長は、京都工芸繊維大学名誉教授の相宅省吾氏で、平成 14 年まで所長として着任。

また、植物染料とその染色の研究に多大の功績を残された奈良大学名誉教授の新井清氏も新旧の研究・実験室で10年間、研究を続けていた。

平成 14 年には測定機器を充実させた研究室「大道」を新設し、さらに平成 16 年には、大道に隣接して第 2 実験室を建設しました。これにより、実験と計測の便宜性が一層高まりました。

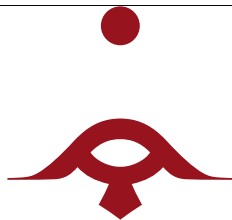
繊維染色研究所では、研究論文集「葆光（ほうこう）」を1989年より、年一回発行しています。

纖維染色研究所

〒616-8006 京都市右京区龍安寺住吉町 15-4

TEL : 075-464-0760

HP : <http://www.kakuyokai.or.jp/seni/index.html>



トップ / NIPPON AKANE を扱いたい

糸を扱いしたい



綿糸・絹糸・毛糸・合成繊維など

生地を扱いしたい



綿・絹・毛・合成繊維・革など

染料を扱いしたい

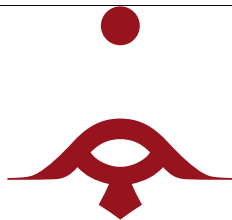


日本茜 100% 天然染料

商品を開発したい



日本茜で染めた商品の開発



只今工事中です

ページへのアクセスありがとうございます。
申し訳ございませんが、このページは現在製作中となっております。
完成しだい、随時更新してまいりますのでもう少しお待ちください。